第1検討部会 会議録

会議の名称	第17回 第1検討部会
開催日時	平成20年4月11日(金)午後6時00分から午後8時17分
開催場所	川口市職員会館 会議室
出席者	(部会長)金井副委員長 (副部会長)金子委員、神尾委員 (委員)池田委員、砂沢委員、落合委員、佐藤(一)委員、林委員
会議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・編集委員会の役割について ・自治基本条例の体系案について ・広報・PIについて
会議資料	
発言内容	<p>編集委員会の役割について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体会の結果、編集委員会の設置と広報・PIチームの設置が決まりました。各専門組織の委員も決まっています。 ・編集委員会での討議の結果について池田委員、落合委員から報告をお願いします。 ・昨日の編集委員会では、日程が決まっただけで、各部会でどのようなものを編集委員会にもっていくのが議論しておいてほしいということでした。 ・全体会が終わった後、第1回目の会議が早速開かれ顔合わせがあり、3つのことが議論になりました。 ・1つは、リーダーについて。第3検討部会の鈴木委員になっていただきました。調整部会のメンバーも兼ねているので、立石委員長の推薦もあり全員一致で決まりました。 ・2番目に決まったのは日程です。第2回目は4月24日18:30から職員会館で、第3回目は5月6日10:00から樹里安で、この日に1日かけて集中検討する予定です。 ・3つ目として、副リーダーについては第2回目の編集委員会で決めることになりました。 ・検討部会では、編集委員にどこまで任せるのかという議論をしておいてくださいということです。 ・編集委員会、よろしくをお願いします。編集委員会に何をお願いするかということを議論するということです。ちなみに編集委員会では傍聴は可

能ですか。

- ・その点も編集委員会で決めてもらうことになると思います。
- ・編集委員以外の人が行って口を出しても問題はないですよ。
- ・策定委員が発言されるのであれば問題ないと思いますが、その点についても最終的には編集委員会の判断になると思います。
- ・策定委員の傍聴者が発言できるかは、大切な議論です。
- ・他の委員の方も都合が付けば参加してください。
- ・こういうものを編集委員に言ってくれということ部会でまとめておいてくれという点が宿題になります。
- ・今後の進め方のスケジュール表が昨日配付されたと思いますが、そのなかにあるように、編集委員会の仕事は条例の体系と項目の検討です。
- ・それをまずやって、部会にもあげてというプロセス、その後に逐条解説の検討に入ると思います。
- ・編集委員会では、条例の体系と項目についてこの部会の案を提案したいと思います。
- ・昨日の資料は項目案について取りまとめたものであると思っております、体系については具体的な議論はしていなかったもので、本日議論していただきたいところです。
- ・「体系」とは自治基本条例の「骨格」である、という理解でよろしいでしょうか。条例になったときの目次の章立てのようなものをイメージしています。

自治基本条例の体系案について

- ・みなさんいかがですか。
- ・体系とは間取り、骨格というイメージ。目次ということですね。
- ・全体会で他部会の状況も分かりましたし、他の部会のどういうところはよいというのか、よくないというのかという点を議論しますか。
- ・他の部会のものを見ていく方法もありますが、まず第1部会としての体系案を議論するという方法もあります。
- ・当部会の案は他の部会とも共通するところもありますね。
- ・第1部会の資料ではフローチャートがないだけであって、体系はそれほ

ど大きくは変わらないのかもしれませんが。

- ・私も他の部会とそれほど大きな差はないと感じました。
- ・他の部会では骨格を作ってから何を入れるのかという順序で検討したかもしれませんが、第1部会ではまずどんなものを入れたいかを先に考えて、その後で体系を考えています。
- ・他の部会とは違う表現ではあるが、内容で共通しているようなところがあります。
- ・ハコが先に決まると入れるものも決まってくるということはありませんね。
- ・野村総研の妹尾さんにまとめていただいた資料で、網羅的に入れるべき点は入れているように感じます。
- ・家を建てる時には便所とか台所とかが必要となりますが、そういう意味で必要なものは入れていると思います。
- ・前文にどこまで入れるのかなどはまた議論が必要だとは思いますが。
- ・現時点の資料では、前文とまちづくりのビジョンについては、明確に区別していません。
- ・自治基本条例がどのようにワークするのかという点を考えなければなりません。
- ・他市の例だと前文にもビジョンが入っていて、目的から位置づけについての内容が第1条以降で規定されているところも多いように思います。
- ・編集委員で議論を進めるなかで、ハコに入らないからカットするという考え方はやめてほしいと思います。
- ・今日、市役所職員の新人さんを見かけましたが、彼らにとっても、読むと自分が何をやるべきか分かるものに自治基本条例はしたいと考えます。
- ・自分は大きなものの一部分なんだと思えるようなものに。
- ・普通の市民にとっては、自治基本条例をわざわざ見ることはあまりないと思います。
- ・用があって初めてなるほどと思うようなこともあろうかと思えます。中学校や高校生が夏休みの宿題でふうんと分かるような。
- ・子どもたちで浸透していく一番の方法は先生が伝えていくことです。社会科の先生にちょっとしたテキストに使ってもらえるとよいと思います。
- ・奇をてらったことにこだわる必要はありません。
- ・全体会では、小学生にもわかるものだという意見がありましたが、小学

生用は別につくればよいと思います。

- ・私も枠で入らないから除くというのはいけないと思います。
- ・例えば、危機管理という案はどこかに入れておくべきであろうと思います。
- ・専門家の人が見て、そんなものは自治基本条例を見なくても地方自治法を見ればわかるじゃないかと思うことも、一市民がみたときに知らないといけないことは入れてほしい。
- ・例えば、市民がどうやって市政に関わるか、選挙だけではなく、直接請求権とか、一市民が知ろうとしたときに自治基本条例を見れば分かるようなものにしておいてほしいと思います。
- ・小学校の授業で説明できるという話がありましたが、自治基本条例の基本的な性格は川口市が行政を行ううえで、その関係している人たち用に、組織、行政のやり方、行政をチェックするやり方といった基本を決めておくことが必要だと思います。
- ・自治基本条例でもっていきなり具体的に市政のやるべきことが、詳しく分かるというものではなく、日本国憲法と同じで大枠を決めることと思っています。
- ・自治基本条例をどう位置づけるかが若干各委員ですれているところがあると認識しています。
- ・初めて見る人にとっては前文が重要となります。
- ・第1部会と第5部会はある程度まとまると思います。
- ・他の部会は枠にうまく入りきるのでしょうか。
- ・そのために、編集委員会に缶詰になっていただいて検討していただくというプロセスが必要となります。
- ・人間、元気なうちはもっといい答えがあるんじゃないかと探すのですが、へとへとになった後、もうこれでよいというのが意思決定の本質だと分析したノーベル賞学者もいます。
- ・第1部会としての体系の原案を編集委員会に持っていたほうがよいと思います。
- ・昨日の時点で各部会からなまじ体系案が出てきましたので、調整がむしろ難しくなってきましたね。
- ・自治基本条例ってなんなのという点を改めて考えないといけないと思

ます。

- ・何回か編集委員会をやっていただくと、最終的には落ち着くところに落ち着くと考えています。少し気楽に進んでください。
- ・市民生活という暮らしのなかで、どのような間取りにするか。リフォームするところはするし、看板をかかげるものもあろうと思います。
- ・各部会からの提案を足し合わせるのはそれほど難しくないと思います。
- ・例えば、協働だけ詳しく書くという提案があれば、それは逐条解説にゆずるとか、そうした議論も必要になってくるでしょうね。
- ・分かりやすくというのは一般論としては分かるのだけど、難しいと思います。
- ・個別条例をいくつも、いくつも作るということになるのでしょうか。
- ・その領域によって、市役所の担当部署が考えるレベルになっていくと思います。
- ・既に条例や制度は山ほどあります。問題は、それと市民が連動していないという点です。そこをつなぐテコの原理があるとよいのですが、既にある制度等は複雑で、市民にとっては単純なものが必要だという点に難しさがあります。
- ・他方、行政をコントロールしようと思えば単純なものでは動きません。
- ・権力者を拘束するという意味では、議員や市長、市職員が見るべき項目は多少分かりにくくてもよいから詳細に規定を書く必要があります。
- ・市長とか議員については複雑なことを書き、市民については単純にと書き分けるという方法は考えられます。
- ・選挙や住民投票というボタンを押すという行動に近い仕組みは、単純な（シンプルな）仕組みとすることができます。
- ・市長、市役所について規定したことが守られているかどうかは、議会・議員がチェックの役割を果たすことができます。
- ・その議員に対しては選挙という単純な仕組みがあります。
- ・逆もあるんですか。議員にとっては、市民から理不尽なリクエストがあって困ることもあろうと思います。

- ・それについて規定するのは難しいと思います。
- ・市民については分かりやすい制度を簡単に規定する。市長については勝手に走らないようにやや詳しく書くということですね。
- ・家のたとえで言いますと、議会や市役所、市長は家具です。市民は住む人で家具ではありません。市民、議会、行政を3者並列に書くのはよくない。立場が違います。
- ・パソコンも同じですが、なかの機械は複雑でないと動かない。しかし、ユーザーについてはシンプルにということが重要です。
- ・体系としては、まず市民があって、その下に行政と議会がある。
- ・また、川口市のあるべき姿がまずあるのではなく、まず人がいるんじゃないかと思います。その後市民はこういう市の姿をつくりたいという話があってということです。
- ・また、市民が選ぶのは行政ではなく、市長です。市長と議会のもとで働くのが市役所という位置づけになります。
- ・市民、議会、行政という並びで論じるのは行政側のトリックであり、本来は議会と同レベルは市長になります。
- ・前文のなかにボランティアのまちとか自然に囲まれたまちとか、いろんなものが盛り込まれています。実際は市民に動いてもらわないとボランティアのまちにはなりませんし、そこに住む人たちが動かなければ自然も守られないでしょうし、ものづくりも受け継がれないでしょう。
- ・考え方が逆転していると思います。政治の前に人間がいるんだから。市民に何かやらせようという発想ではいけないと思います。
- ・市民がよいと思えば参加するという順序です。
- ・議員に対しても様々な提案がありますが、一面ではそうかもしれないと思う一方、違うと思うこともあります。ある面では押し付けになるといけません。
- ・議会や市長にこういう働きをしると積極的にいうのが、市民に権利があるということではないでしょうか。
- ・私の申し上げたいことは、言葉を換えると、市民参加ということであり、よりよい川口のためになすべきことは、市民と行政が力を合わせてこそできるんじゃないかと思うわけです。
- ・市民の責務については資料に書くべきか非常に迷いました。部会の議論でもここは議論があったと思います。
- ・市民にはやらない自由もあるということを確認しておくべきです。

- ・市民が市民に対して命令するのはおかしいですね。
- ・やらなくてよい自由も保障しておかないと、責務だけ市民に押し付けるようなことになってはいけない。
- ・公共心をもつという倫理的な規定は必要だと思います。住民税は払う義務があるし、権利だけというのはおかしいと思います。
- ・総論のところボランティアのまちとか、環境のまちと書くのはよいと思いますが、それを具体的にどうやって進めるかは、なかなか難しいところがあります。
- ・次の世代のこと、未来のことに言及した部会もあります。
- ・今、過ごしている人が半歩でも一歩でも身近なところでやれることをやっていくことが必要ではないでしょうか。
- ・個別のことはまさに JC の活動のなかにもあります。
- ・構成案としては、金井先生が黒板に黄色で書いたところが最低あればよいと思います。(別紙参照)
- ・市民が見て、市がどういう方向を向いているのか分かればよいと思います。
- ・公共心の意識ということは触れたほうがよいでしょう。モニターペアレンツのようなことはいけない。
- ・川崎市の自治基本条例では、市民の責務について、互いの自由と人格を尊重する、自らの行動に責任をもつ、次の世代に配慮し持続可能な社会をつくる、負担をきちんと払うといった、最低のことが書かれてあったと思います。
- ・市民の責務については、他の市民の権利に対してのものしか書けないのだと考えています。つまり、負担を払わない、というのは、他の市民の負担になるという意味で他の市民の権利にふれるのです。
- ・他の市民の権利を尊重するというのは当然必要なことです。
- ・条例特有の言葉は分かりにくいです。並列なのか直列なのか分かりにくい。市民にとっては、自治運営におけるかではなく、簡単な言い方にしてほしいと思います。
- ・他の市民の権利を尊重しましょうということです。
- ・市役所に対して市民は好き勝手なことをしてよいかといえば、それは別問題になります。パソコンでも同じですが、機械をドンドン叩くのはよ

くない。それは使い方の問題です。

- ・条文の案について、どこで（誰が）作るのか、事務局はどう考えているのですか。誤解を招くように読まれては困るというのが法律の世界ではあるでしょうし。
- ・解釈の仕方でするくなることはありますよね。
- ・どこまで編集委員会でやるかについては5月の会議次第です。
- ・ハコの見出しを作るのがまずは編集委員会の仕事になります。結局は部会での検討が中心になるかもしれませんが。
- ・ドラフトはどなたかが書くんですか。
- ・5月の編集委員会には事務局やコンサルの方も当日は出るんですよね。
- ・参加します。
- ・最終的には条例ですから議会を通らないといけないんですよね。
- ・私は市民の立場としてこの策定委員会に参加しています。
- ・編集委員会ではまずは目次案を決めてもらうことになると思います。
- ・イメージとしては、編集委員会において体系なり、項目案を決めてもらい、その後、その目次にそって項目案を各部会から提案するという流れ。
- ・その後の編集委員会は項目案を検討、すなわち素案案を検討することになると思います。
- ・つまり、編集委員会が素案案のもとを作ることになるが、各部会からアイデアを出すという意味で起草ではないのです。
- ・足したり、引いたりするので編集委員会も事実上起草には近くなりますが、素材は各部会から出すという点が重要です。
- ・項目案は既に各部会から出ています。5月6日の編集委員会では枠組みをきっちり出すということと理解しています。
- ・各部会からも項目案の見直し案がでるんでしょうね。
- ・他の部会のものも見て、編集委員としての案をつくるといいと思います。
- ・一度、部会案は野村総研さんに今日の議論を踏まえてまとめていただきたいと思います。

- ・市民にかかわるところについて紹介したいのですが、SKIP のところにある早稲田芸術学校では、外国人居住者に焦点をあてて川口を紹介しようという企画があるようです。
 - ・学校の生徒さんも多国籍なようです。近いうちにインターネットでも配信できるようにやりたいということです。川口は全国でも5番目に外国籍市民が多いまちでありますし、そのあたりのことをもっと考えていくべきだと思いました。
 - ・市民のところに関係する現状の動きですね。
 - ・外国籍の学生さんには選挙権もないんですよね。
 - ・そういう立場の人もあります。
 - ・市民集団をどこまで考えるか重要な問題で、よくよく議論しないとイケません。
 - ・日本国憲法は日本国民について何も定義しておらず、それは法律が決めることと丸投げしています。ということは、事実上想定している概念があるということです。当時は成人男子を日本人ということ想定していました。
 - ・「地域のあるべき姿」については、前文に入れるというイメージでしたが、本文に入れるのか、前文に入れるのかは、分けても分けなくてもよいという理解でいいですか。
 - ・ご指摘の通り、あるべき姿について個別の条文にするという方法もありますし、前文で述べるにとどめるという方法もあろうかと思えます。
 - ・それでは、次回についてですが、公明党の前議員にインタビューをお願いしたいと思います。その後編集委員会に向けた議論をしたいと思えます。
 - ・野村総研さんに骨格案を作ってもらい、それをもとに議論したいと思います。
 - ・来月の日程はどうしますか。5月6日に構成案が編集委員でできたことを想定して、5月28日と29日にしましょう。
全員了承する
- 広報・PI について
- ・林委員、広報PIチームについても状況を教えていただけますか。

	<ul style="list-style-type: none"> ・各部会から1名ずつ参加し、4月14日に第2回目の会議を持ちます。 ・編集委員会の状況もにらみながら、広報PIの企画を進めていきます。広報PIも合宿しようかなと冗談めかしながら、熱意のある方がそろっています。 ・調整部会とのかかわり、どのように関連付けながら進めるのか、どう決定し、実施していくのかという点は留意していきたいと思います。 ・それぞれの部会が開かれるときに広報PIの委員が各部会に随時伝え、みなさんの意見も反映させていきます。 ・リーダーは第5検討部会の伊田昭三さんになりました。よろしくお願いします。 ・立案ができれば皆さんに知らせていくということをお願いします。 ・それでは本日の部会は以上です。 <p style="text-align: right;">以上</p>
<p>次回以降日程</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次回は4月17日(木)18時から。